

日本バレーボール学会 2019年バレーボールミーティング報告

期 日：2019年8月4日(日)10:00～15:30

会 場：福岡大学 総合体育館 3F

テーマ：バレーボール競技の普及拡大～九州から WAVE を起こせ！～

2019バレーボールミーティングが8月4日(日)、福岡大学総合体育館にて開催されました。講師3名、出席者36名(会員23名、非会員13名)、キッズスタッフ・選手71名、補助学生10名、総勢120名の参加がありました。米沢実行委員長の日程説明からスタートし、河合会長の“バレーボールはやって楽しい、見て面白いスポーツであるということをもっともっと広報しようではありませんか”というあいさつから始まり、終日活発な情報・意見交換が行われ、充実したミーティングとなりました。



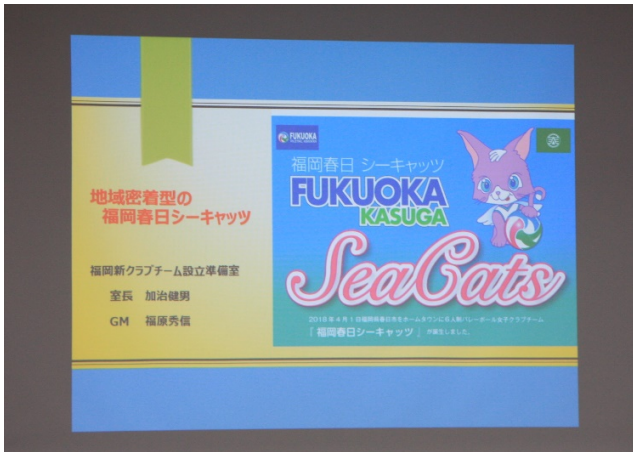
10:10～11:30 〈第Ⅰ部 講演〉 司会：池上 寿伸 氏(佐賀大学)

テーマ「福岡からVリーグチームを！」

講師：加治 健男 氏(福岡県バレーボール協会 理事長)

講師：福原 秀伸 氏(福岡春日 SeaCats ゼネラルマネージャー)

福岡春日シーキャッツの設立に至る経緯、現在、今後の見通し等について講演いただきました。Vリーグ加盟を目指す同チームは現在活動2年目、コンセプトである“地域密着型の市民球団”として一企業に頼らないチーム運営を軌道に乗せるべく、これまでのバレーボール界の常識にとらわれない様々なチャレンジを仕掛け、チームの戦績はもちろん、組織として着実に力を伸ばしている様子が伺えました。特に人と人との繋がりの中で成長しているチームとして、1. スポーツは文化 2. チームとして活動 3. 広報活動 4. 財務関係といった視点からより詳しく説明いただきました。“鮭の母川回帰作戦”と銘打った県外で育った選手が安心して地元に戻ることができるチームを創るという視点は、バレーボールが上手になりたいと志す若者、選手たちにとっても将来への見通しの明るさを感じられ、大変心強いものになるのではないかと思います。また、アイデアあふれる講師の加治氏、福原氏からは、とにかくバレーボールの人気を上げるために取り組んでいるというお話もありました。九州からバレーボール界に新しい風が流れていきそうな予感がしました。



11:30～11:50 〈ディスカッション〉 司会:池上 寿伸 氏(佐賀大学)



出席者からは刺激的な講演をありがとうございましたという声が寄せられ、活発な質疑応答が行われました。その中では行政との関係性や、今後の見通し等についてより詳しい説明、また、具体的なアドバイスが行われ、全国各地から集まった参加者も大いに興味をそそられた様子でした。設立にあたっては“一生懸命やっていたら思いがけない人が力を貸してくれる”という先人のアドバイスを胸に邁進した様子をお話しいただき、“人材という原点がそこにはある”というフレーズが印象深く刻まれました。

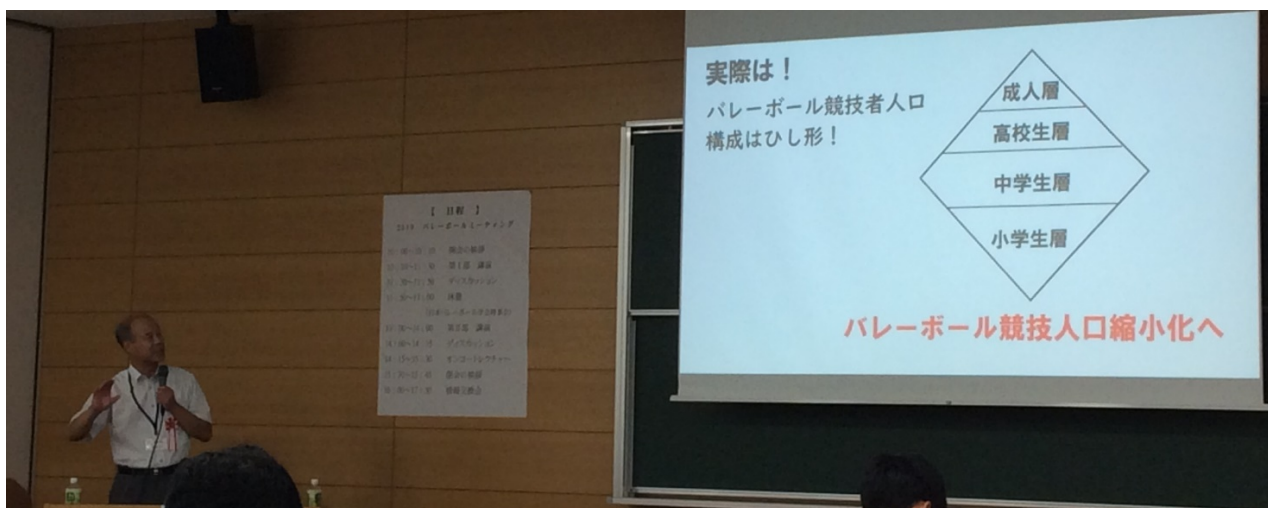
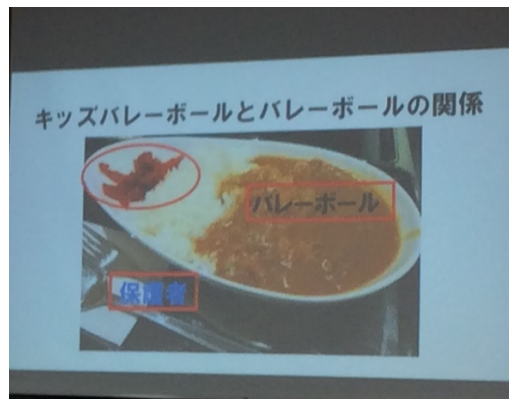
13:00～14:00 〈第Ⅱ部 講演〉 司会:宮良 俊行 氏(長崎国際大学)

テーマ「熊本から WAVE を! 新しいバレーボール人口の創出」

講師:藏原 良二 氏(熊本県キッズバレーボール推進委員会)

講師の藏原氏より、1. 今回のテーマについて 2. キッズバレーボール創作の動機 3. キッズバレーボールのルールについて 4. キッズバレーボール創作活動についてといった内容で講演いただきました。情熱ほとばしる藏原氏は、キッズバレーボールとバレーボールの関係をカレーライスに例えて表現されるなどユーモラスな視点も交えながら、現代の様々な場面においてバレーボールが軽んじられていることに対する危機感からキッズバレーボールを創作するに至ったとお話されました。キッズバレーボールを立ち上げるにあたっての信念のあるコンセプト、緻密な計画、具体的な人材確保、そして創作活動の実践まで、その熱心な取り組みには頭の下がる努力がありました。また、第Ⅰ部講演同様“普及活動の鍵は人である”、“しがらみにとらわれない組織が必要”と、人材の活用について熱心にお話されました。さらに、

バレーボールの普及に向けた活動ではありますが、キッズをひとりの人間として関わる姿勢や家庭の教育が大切(家庭が一つのチーム)だという視点が何度も伝えられました。その視点を“バレーボールを通して実践していくことが重要だ”と、ご自身が教育者として児童生徒、保護者に長年携わってこられた思いが溢れ出ているようにも感じられました。



14:00～14:15 〈ディスカッション〉 司会:宮良 俊行 氏(長崎国際大学)



出席者からは立ち上げに至るまでの膨大な回数の会議や意見のやり取り等について敬意を表するとともにバレーボールの普及活動に対する感謝の念が伝えられました。その後、今後のキッズバレーボールの普及拡大に向けて、キッズバレーボールの倫理規則の作成の意味や、実際に課題と考えられるジュニアバレーボールとの関係性、学校体育におけるソフトバレーボール、バレーボールの取り上げられ方等、多岐にわたり活発に意見交換がなされました。

14:15～15:30 〈オンコートレクチャー〉 司会:宮良 俊行 氏(長崎国際大学)
テーマ「模擬キッズバレーボール大会の実演」
講師:藏原 良二 氏(熊本県キッズバレーボール推進委員会)

猛暑の中、たくさんのキッズ、保護者、スタッフに集まっていただき、実際の大会実演をお願いしました。その中で、工夫されたコートや使用しているボール、競技規則等の確認を行いました。出席者は、キッズ選手(U-5, U-8, U-9)や保護者、スタッフと直接意見交換をすることができ、藏原氏の講演内容と実際の現場を繋げながらの大変有意義なオンコートレクチャーとなりました。キッズたちは顔よりも何倍も大きいボールに一生懸命食らいつき、時には上手いかずに泣き出すキッズ、そのキッズを抱きしめる保護者の姿が見受けられるなど、体育館のあちこちで様々な光景を目にすることができました。もっともっとバレーボールを好きになってもらいたい、長くバレーボールを続けて欲しいと願わずにはいられませんでした。



試合終了後の閉会式にて河合会長が表彰プレゼンターとして登場されました。いずれはこのキッズたちの中から、地域のバレーボール活動を推進してくれる人材、さらには日本のバレーボール界を担う人材が輩出されるかもしれません。
文責:久保田もか(長崎大学)

